

各関係機関長 殿  
病害虫防除員

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

令和元年度農作物病害虫発生予察情報について

令和元年度農作物病害虫発生予報及び半月報を発表したので送付します。

令和元年度農作物病害虫発生予報第2号

令和元年5月17日  
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 5月第2半旬の巡回調査では, 発生圃場率が61.1%と, 平年(35.7%)より高いが, 本田生息虫数は2.0頭と, 平年(1.7頭)並の発生である。

(2) 高松地方气象台が5月16日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間のはじめは気温がかなり高くなると予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生状況に注意し, 薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には, 薬剤を水面施用する。

(2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が助長されるので, 深水を避け, 根を健全に保つ。

II. 果樹

カンキツ

そうか病

1) 予報内容

発生量 平年並~やや多く(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月第3半旬の巡回調査では, 春葉での発生圃場率が13.3%と, 平年(6.3%)に比べてやや高く, 発病度も0.20と, 平年(0.03)に比べてやや高い。

(2) 高松地方气象台が5月16日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間のはじめは気温がかなり高くなると予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生園では落花期に薬剤防除を行う。

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月第3半旬の温州みかん巡回調査では, 枯枝から黒点病菌が確認された圃場率は85.7%で, 枯枝中の $\alpha$ 型孢子数は $0.3 \sim 2.7 \times 10^5$ 個/gであった(前年: 黒点病菌確認圃場率が62.5%, 枯枝中の $\alpha$ 型孢子数が $0.2 \sim 0.3 \times 10^5$ 個/g)。

(2) 高松地方气象台が5月16日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量及び日照時間は

ほぼ平年並で、期間のはじめは気温がかなり高くなると予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝、剪定枝は園外へ持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。
- (2) 落花期に薬剤防除を行い、その後1か月、または降水量200～250mm毎に防除を励行する。

かいよう病(スダチ)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第3半旬のスダチ巡回調査では、旧葉での発生圃場率が85.7%と、平年(65.9%)に比べてやや高く、発病度も3.7と、平年(0.4)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が5月16日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間のはじめは気温がかなり高くなると予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病枝のせん除を行い、常発園や罹病性品種園では防除を励行する。
- (2) 風当たりの強い園では防風対策を講じる。

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い

2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場での第1世代幼虫の初発生は5月14日に確認された(平年:5月17日,前年:5月10日)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤による防除適期は、IGR剤・ネコチノイト<sup>®</sup>剤の場合、発生確認の10～15日後(5月24～29日)、有機リン剤の場合、35～40日後(6月18～23日)の時期である。
- (2) スダチでは、有機リン剤による防除は行わない。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第3半旬の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が66.7%と、平年(46.9%)に比べてやや高く、寄生葉率も21.1%と、平年(7.6%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が5月16日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間のはじめは気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第2半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が6.4%、発病葉率が0.1%、発病果率が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が5月16日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間のはじめは気温がかなり高くなると予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 摘果期に薬剤防除を行う。
- (2) 薬剤耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第2半旬の巡回調査では、発生圃場率が37.5%と、平年(47.9%)並の発生であるが、寄生新梢率は1.3%と、平年(3.4%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が5月16日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間のはじめは気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

- 発生時期 平年並(前年並)
- 発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 今春の予察灯調査においては、勝浦町では平年(4月23日)より1日早い4月22日に、上板町では平年(4月24日)より3日早い4月22日にツヤアオカメムシの初誘殺を確認した。また、4月第1半旬から5月第2半旬までの誘殺数は、平年並で推移したが、5月第3半旬に急増し、平年より多く誘殺された。
- (2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、9地点で越冬を確認、越冬成虫は7.0頭/m<sup>2</sup>であり、平年(1.6頭/m<sup>2</sup>)に比べて高く、前年(成虫確認地点数は8地点、越冬成虫数は0.9頭/m<sup>2</sup>)に比べて高い越冬密度であった。
- (3) 高松地方気象台が5月16日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間のはじめは気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月・半旬	勝浦町					上板町				
	2019年	2018年	2017年	2016年	平年	2019年	2018年	2017年	2016年	平年
4・1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
4・2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4・3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
4・4	0	0	0	0	1	0	2	0	2	1
4・5	6	15	1	1	3	21	25	3	3	4
4・6	2	20	1	5	8	1	4	11	6	9
5・1	50	117	12	12	47	15	73	72	3	27
5・2	19	75	15	3	60	3	11	61	10	29
5・3	130	74	68	13	72	32	30	70	5	44

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月・半旬	勝浦町					上板町				
	2019年	2018年	2017年	2016年	平年	2019年	2018年	2017年	2016年	平年
4・1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
4・2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
4・3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4・4	0	0	0	1	1	0	1	0	3	1
4・5	28	4	0	2	1	25	1	0	1	1
4・6	0	11	9	0	7	1	0	0	3	2
5・1	7	30	10	3	30	15	10	6	0	6
5・2	9	14	16	0	15	2	3	11	3	11
5・3	91	7	21	2	15	15	10	16	1	19

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林(サクラ、キリ等)から成虫が飛来するので、園内を巡回し、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

### Ⅲ. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

#### 発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoso/>

- 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。